

# 生石灰混合土の $q_c$ , $q_u$ , CBRの相関性

岩手大学 工学部 石田 宏

1. まえがき. 一般に石灰系, セメント系による安定処理土の強度特性の表示は  $q_u$  (軸圧縮強度),  $q_c$  (コーン指数), CBR の三者が用いられている。特に, 最近の報告例を参照すると  $q_u$  による表示が多いようであるが, この三者の相関性についての実験報告例はほとんどないようである。また, この三者の相関性を求めるにしても, 用いる土質材料によって異なると考えられる。また, 試験手法が異なることから考えると, 一般的に相関性を表示することは困難と考えられるが, 火山灰質粘性土の一種である岩手ロームの生石灰安定処理土について上記三者の相関性を求める試験を行なったので報告する。特に生石灰安定処理土の場合は供試体作成直後における場合と, 長期養生した場合とでは土質性状の相違から異なる関係曲線となることも考えられるので, この二つに対する検討をも行なうことにした。

## 2. 試験方法.

供試体作成直後の試験は 15 cm モールドを用い  $q_c$ , CBR を測定し,  $q_u$  は 15 cm モールドより径 40 mm, 高さ 10 cm に整形して試験した。

長期養生(30日以上)の  $q_u$  は径 5 cm, 高さ 10 cm のモールドに試料を入れ,  $q_c$ , CBR 用供試体と同一の乾燥密度になるように実固めた後試験した。

3. 試験結果. 図-1 は長期養生した場合, 図-2 は供試体作成後の関係を示した。試験結果を参照すると供試体作成直後と長期養生した場合は異なる関係直線になっているが, その差は小さい。長期養生した場合の試験例が不足しているが, さらに試験例を多くして確実なものにした」と考えている。

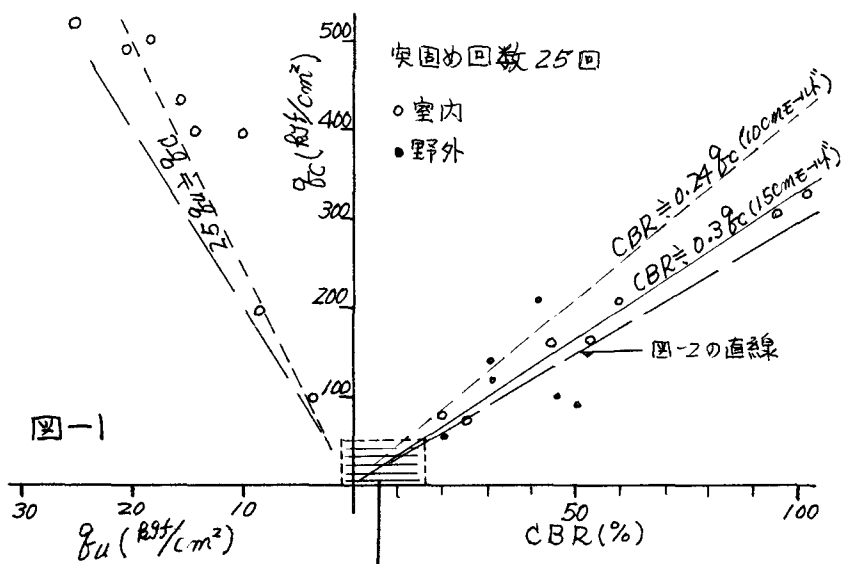


図-1

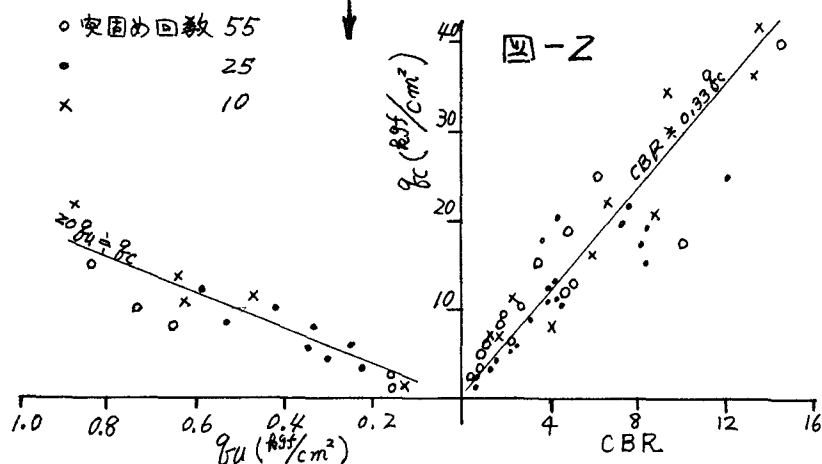


図-2